

## 日本女性会議 参加報告書

古賀市男女共同参画審議会委員  
飯尾みどり

大会名 「日本女性会議2015倉敷」  
思いやり 男女(ひと)が集う 白壁の町  
～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～  
日時 2015年10月9(金)～10日(土)

10月9日(金)

開会式

基調講演 13:50～14:20  
内閣府男女共同参画局長 武川 恵子氏  
「女性が輝く社会を目指して」

まず我が国の現状を統計やグラフなどを使って解りやすく説明いただいた。ジェンダーギャップ指数は142カ国中104位であること。先進国では最低ランクの評価。

次に、なぜ男女共同参画、特に我が国での女性の活躍が必要なのか。

少子高齢化はこれからの日本にとって最も大きな問題である。女性が社会又は政治に参画していく、参画しやすい社会にしていくことが解決の糸口である。とくに子育て世代の家事育児、教育を取り巻く環境(子育て支援金、長時間労働の問題、キャリアの確保、研修の充実など)を整備することが喫緊の課題であるということを諸外国の事例を参照しながら話された。それから政府の取組と成果、地域別にみる女性の活躍状況について。

日本はまだまだ女性の政治参画、管理的職業従事者の割合が低い。特に地方においては都市部との差が大きく、それが慣習的な役割分担や性別役割分担の見直しに至っていないことが課題のひとつとして挙げられた。

記念講演 14:40～16:10  
NHKアナウンサー 武内 陶子氏  
東京工業大学教授 上田 紀行氏

武内さんは、倉敷での生い立ちを含めこれまでの仕事のこと、結婚出産を

経て感じてきたことなどを、聞きなじんだ明るい弾んだ声で話され楽しい講演だった。

マイクをバトンタッチして武内さんのパートナーである上田さんのお話もまた面白く、親・パートナー・子どもとの関わり方、気持ちを伝えるということの難しさ大切さというところが心に残った。

10月10日（土）

分科会3 9：30～11：30

「地域で育む子育て環境 ～すべての子ども みんなで支え見守ろう～」  
(形式としてはコーディネーターとパネリスト3人のシンポジウム)

地域社会の子育てとの関わり方、父親の育児参加、生きづらさを感じている子どもたちへの支援などが活動紹介、現在の取組、課題や問題点を交えて話し合われた。いろいろな地域に出かけて行って子育て広場を開設し、祖父母世代の人たちにも関わってもらえるような活動（保護者への声の掛けかたや見守る姿勢の大事さなど）の報告や、居場所のない子どもたちの学習支援、基本的な生活支援の報告などがあつた。さらに、夜間子どもだけになる家庭の子どもへの支援について報告があり、それについて意見が交わされた。例えば、一緒に宿題をする、一緒に料理を作って食べる。食事のマナーを教える（箸使いのマナーなど）、風呂に一緒に入って体を清潔にすることを教える・・・等々。これは基本に、友だちやよその家に行ったときに恥をかかないために、知らないということ、経験していないということはいじめや孤立に繋がらないようにということだった。メディアでもこの頃よく取り上げられていることだがやはり貧困による教育の格差、生活の質の格差により子どもの権利が守られていないことが危惧されていた。

特別報告 13：00～13：30

UN Women 日本事務所長 福嶋 香代子氏

「国際的な男女共同参画の取り組みとUN Women の役割」

UN Women とは、2010年7月の国連総会決議に基づき設立された、ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのために活動する国連機関。

日本事務所は2015年4月、東京文京区の文京シビックセンター内に開設されたアジア地域で唯一のオフィスである。

アジア各地域の女性の状況、事例を紹介しながらジェンダーは時代とともに

に変わることに、女性がいろんな選択肢を持つことがこれからの世界（平和、経済）にとって非常に重要であることを話された。そのために政治やアカデミー、市民団体、メディアなど様々な方面と協働し活動と役割を広く知らせていく予定であること。

#### 分科会報告 13:30～14:15

10の分科会（女性史、防災、子育て、コミュニケーション、DV、セクシュアル・マイノリティ、貧困、食育、居場所づくり、若者）それぞれの報告があり、分科会のテーマは違うのだが共通したものがあるように思った。

#### 記念シンポジウム 14:30～16:00

コーディネーター 岡山大学副学長 沖 陽子氏  
パネリスト 有限会社モーハウス代表 三畑 由佳氏  
東レ経済研究所 渥美 由喜氏  
倉敷市長 伊東 香織氏

「希望の社会は“わたしたち”にある」  
～ライフステージとそれぞれの男女共同参画～

沖さんから岡山大学の男女共同参画についてと女性研究者の育成プランの取組の説明があった。現在の日本は女性研究者が少ないこと、理系の女性研究者は韓国に追い越されたことなどを聴き、驚きだった。次に三畑さんが授乳に着目した運動、外出先でも授乳しやすい服の開発、子連れ出社のススメなど、これまでの活動紹介をされた。乳幼児期の子どもを連れて会社に行く、仕事をする映像を見て本当にすごいことだと思うと同時に、こういう社会（子どもや子育て中の親に寛容な）が早く、普通になってほしいと思った。

渥美さんは、男性にとってのワークライフバランス。子育て、認知症のお父様の介護看護の経験、会社での立ち位置など葛藤を抱える中で、共働きのパートナーと乗り越えてきたこれまでを話された。

伊東市長は、「『子育てするなら倉敷で』と言われるまち」を運営の基本の初めに掲げ、この6年で出生率が1.5から1.61に伸びたこと、働く女性数が約4,050人増加し、女性の市職員—土木・建築職—の比率の伸びなど説明された。40代後半の明るくさっぱりした方で、心から倉敷を岡山を大事に思っておられるのがひしひしと伝わってきた。

## 日本女性会議に参加して ～感想～

今回初めて日本女性会議に参加させていただいて、大変得るところの大きい2日間でした。

男女共同参画とは何か・・・企業や自治体の経営戦略、地域戦略として不可欠である、そのことに気づけるかどうか、日本企業、地域社会の大きな分岐点にあるというお話がありました。

これからの、日本が抱える問題を乗り切っていくのに大切なのは、女、男でなく、子どもも高齢者も含めてお互いそれぞれをひとりの人として尊重し認め合う、助け合うことではないかと強く感じました。

「男女共同参画」という名称から、ただ女性の権利だけを主張するものと捉えられがちですが決してそうではなく、だれでもが自分の居場所を持つ、人生を楽しむ、そして意義のあるものとして生きるための基本であると思いました。

日本女性会議の内容ではありませんが、今回往きの車中を他の団体（文化協会、商工会）の方とご一緒させていただきました。これもまた大変得るものが大きく、特に、筵内地区の女性学級の活動のお話は参考になりました。

それから、倉敷の方々の温かいサポート、その数にも驚きました。駅から会場までのあらゆるところにピンクのTシャツを着たボランティアの人たちが立ち、道案内とともに、そこここで掛けて下さるにこやかな挨拶に心が和みました。本会議だけでなく会場に向かう途中を盛り上げる役割、イントロダクションが非常に大事だと感心するとともに有り難く思いました。